



2026 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ

ROUND 3

SUPERBIKE RACE in KYUSHU



- 大分県
- オートポリス
- 1周=4.674km

- クラス / JSB1000
- マシン / BMW M1000RR
- タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 44 関口 太郎

RACE 1

5月30日(土) 天候: 晴れ コース: ドライ

- 予選 12 番手 (タイム: 1分50秒157)
- 決勝 11 位

RACE 2

5月31日(日) 天候: 晴れ コース: ドライ

- 予選 12 番手 (タイム: 1分50秒557)
- 決勝 11 位



三明電気工事



事前テストなしで挑んだオートポリスは、両レースともポイントを獲得

シリーズで唯一、九州で行われるオートポリスラウンドが5月30日・31日に第3戦として開催された。前週に事前公開テストがあったが、Team TAROとしては、鈴鹿8耐テストの翌週のため、鈴鹿8耐仕様からスプリント仕様にするのがスケジュール的に厳しいため、総合的に判断し、今年も事前公開テストへの参加を見合わせた。

雄大な阿蘇の真っ只中にあるサーキットであるオートポリスは、度々、霧や雲に包まれ走れなくなるが、事前公開テストも1日は視界不良で走れず終いだっただ。全日本ロードレースが開催されているサーキットで関東から最も遠いオートポリスだけに結果的に、その判断は妥当だったと言えるだろう。



こうしてレースウィークから走り始めた関口は、金曜日の1本目で、まず2種類のセットを用意し、どちらの方向で進めていくかを決めつつタイヤもセレクト。2本目では、決勝周回を見越した作業を順調に進めて行った。



土曜日の公式予選は、いつものようにユーズドタイヤで走り始め、タイヤに厳しいコースでもあるオートポリスでの決勝に向けたタイヤライフを確認。セッション終盤にニュータイヤを履いてタイムアタックに入るが、単独走行となってしまう思うようにタイムが出せずに予選は、レース1、レース2共に12番手となる。決勝に向けてのフィードバックはつかめており、どこまでライバルに食らいついていけるかがカギとなった。



レース1は、まずまずのスタートを見せ、オープニングラップは11番手。2周目に児玉選手にかわされるが、前を走る集団を追っていく。ラップタイムは1分50秒台と予選と大きく変わらないタイムで周回するが、勝負を仕掛けるところまでいけない。7周目に、前で転倒があり、一つポジションを上げ11位でチェッカーフラッグを受けた。

日曜日朝から快晴となり、3日間通して天気に恵まれた。レースウィークを通じて天気のいいオートポリスは珍しいことだ。レース2は、レース1より3周長い18周となるため、タイヤをうまく使うために、朝のウォームアップ走行ではマップを変更し、いい手応えを感じていた。

レース2もスタートはまずまず決まり、前を走るライダーを追っていく。4周目にペナルティを受けた選手がいたため一つポジションを上げ、前を走るスズキワークスの津田選手のテールを見ながら周回。何とかついていきたいところだったが、何度か転倒しそうな場面もあり、転倒だけは避けようとペースを調整。18周を走り切り、レース2を11位で終えた。

今回のオートポリスラウンドも多くの応援ありがとうございました。今年もオートポリスは、事前公開テストに参加しませんでした。結果的に見ても上出来でしたし、その判断は正しかったと思っています。レースウィークのみの限られた中で、いかに戦うか、チーム一丸となって挑みました。レースは、みんな同じですが、コンスタントにタイムをキープするのが難しいサーキットなので、津田選手に追いつこうとプッシュすると何度か転倒しそうになりました。昨年は他車と接触して転倒していますし、鈴鹿8耐の直前なので、マシンを壊さないで終えられたのでホッとしています。この後は、鈴鹿8耐に向けて全集中していくので、アツイ応援を、よろしく願っています！

関口 太郎

